年間授業計画

大泉桜　高等学校 令和6年度（1学年用）　教科　　芸術　　科目　音楽Ⅰ

教　科：芸術　　科　目：音楽Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　1 学年　3 組～　5 組

教科担当者：（3組：舘　　）（4組：舘　　）（5組：舘　　）（　組：　　）（　組：　　）（　組：　　）

使用教科書：（ MOUSA 1　　）

教科　芸術　　の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目　音楽Ⅰ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 歌	表現 器	表現 創	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫させる。	曲種に応じたさまざまな発声の方法について学び、それぞれの曲を歌う。	○				【知識・技能】 ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 【思考・判断・表現】 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	曲想と音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、他者と協働しながら自己のイメージをもって歌唱表現や器楽表現を創意工夫させる。	楽譜の正しい読み方や書き方を身に付け、表現に生かすようにする。		○			【知識・技能】 ・曲想と手拍子や足踏み、コップや机などを打つ音色や奏法との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、及び他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 【思考・判断・表現】 ・音色、リズム、速度、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・曲想と手拍子や足踏み、コップや机などを打つ音色や奏法との関わり、及び他者との調和を意識して演奏することに興味をもち、主体的・協働的に器楽の学習に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	曲想とリコーダーの音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫させる。	リコーダーの正しい奏法を身に付け、曲を演奏する。		○			【知識・技能】 ・曲想とリコーダーの音色や奏法との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、及び他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 【思考・判断・表現】 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・曲想とリコーダーの音色や奏法との関わり、及びアーティキュレーションに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解するとともに、反復、変化、対照などの手法を活用してメロディーをつくる技能を身に付け、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫させる。	示されたコードやベースをもとにメロディーをつくったり、パートを重ねたりする。また、発展させたメロディーにコードを付ける。			○		【知識・技能】 ・音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したりイメージと関わらせて理解している。 ・創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付け、創作で表している。 【思考・判断・表現】 リズム、旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 コード進行のもつ働きや効果とメロディーとの関わりについて関心をもち、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価と根拠について考え、音楽のよさを自ら味わって聴かせる。	I.ストラヴィンスキーについて学び、楽曲を鑑賞する。				○	【知識・技能】 ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。	○	○	○	6
2学期	合唱やヴォイス・アンサンブルによる表現の特徴を理解するとともに、それを生かして歌ったり、他者との調和を意識して歌ったりする技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫させる。	曲の性格を捉え、それぞれにふさわしい表現になるよう工夫する。	○				【知識・技能】 ・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、他者との調和を意識して歌う技能、及び合唱やヴォイス・アンサンブルなど表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付け、歌唱で表している。 【思考・判断・表現】 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり。合唱やヴォイス・アンサンブルによる表現の特徴、及び各パートや指揮者の役割に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫させる。	調絃や勘所の押さえ方など、三線の正しい奏法を身に付け、曲を演奏する。		○			【知識・技能】 ・曲想と和楽器の音色や奏法との関わり、及び和楽器を使った様々な形態による器楽表現の特徴について理解している。 ・創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。 ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の高感性や個有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・曲想と和楽器の音色や奏法との関わり、及び和楽器を使った様々な表現に関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。 ・和楽器やその作品と物語、及びほかの楽器と比較した際の音楽表現高感性や個有性について関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、構成上の特徴について、表したいイメージと関わりを理解するとともに、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる	「虫のこえ」や「鳥たちの饗宴」の例を参考にして、リズム・アンサンブルをつくる。			○		【知識・技能】 ・音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 ・創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付け、創作で表している。 【思考・判断・表現】 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	○	○	○	6

	技能を身に付け、共通のイメージをもって創作表現を創意工夫させる。						【主体的に学習に取り組む態度】 ・音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、構成上の特徴、及び反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる活動に関心をもち、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。				
	世界の諸民族の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさを自ら味わって聴いたり、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫させる。	世界の諸民族の音楽について学び、曲を鑑賞する。	○			○	【知識・技能】 ・世界の諸民族の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 ・音楽の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、アリランやヨーデルにふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 【思考・判断・表現】 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・世界の諸民族の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり、及び音楽表現の共通性や固有性に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 ・音楽の特性と曲種に応じた発声との関わりに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	6
3学期	曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを意識するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫させる。	物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情をなどを理解し、曲にふさわしい表現を工夫して歌う。	○			○	【知識・技能】 ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 ・音楽の特徴と他の芸術との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 ・音楽の特徴と他の芸術との関わりに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	器楽アンサンブルによる表現の特徴を理解するとともに、それを生かして演奏したり、他者との調和を意識して演奏したりする技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫させる。	パートの役割を理解して、音色の特徴を生かしながらアンサンブルする。		○			【知識・技能】 ・曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、他者との調和を意識して演奏する技能、及び器楽アンサンブルの表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 【思考・判断・表現】 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・曲想と楽器の音色や奏法との関わり、及び他者との調和や表現形態の特徴を生かして演奏することに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解するとともに、曲や演奏に対する評価と根拠について考え、音楽のよさを自ら味わって聴かせる。	J.S.バッハについて学び、楽曲を鑑賞する。				○	【知識・技能】 ・曲想や表現上の効果と音楽との構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	4 合計 70